

文献・資料 を集める

国語研で研究しているのは、現在使われていることばだけではありません。かつてどのようなことばが使われていたかを研究するため、古い時代に書かれた書物や文書などの文献を収集し、整理・分析しています。ことばがどのように変化してきたかを知る手掛かりにもなります。

また、収集の対象は国内だけではなく。移民・植民によって海外に形成された日本語コミュニティを対象に、日本語で作成されたさまざまな資料を収集して、日本語のバリエーションや変化についても研究しています。

文献調査の主な携行品（高田智和教授の場合）

原稿用紙、鉛筆（黒・赤・青・緑）、ルーペ、ペンライト、巻き尺。古い文献を調査するときは、鉛筆以外の筆記用具の持ち込みが禁止されています。ペンライトは、角筆で紙の表面をへこませて書かれている文字の読み取りにも使います。



国語研が所蔵している『悉曇藏』巻一（安然 著、1297年写）を調査したときに作成した文献ノート。調査した日付・場所、文献の名称、表紙に書かれている情報、大きさ、紙質などを原稿用紙に記録していきます。右は、国語研のウェブサイトで公開しているこの文献のデジタル画像。

国語研が所蔵している『悉曇藏』巻一（安然 著、1297年写）を調査したときに作成した文献ノート。調査した日付・場所、文献の名称、表紙に書かれている情報、大きさ、紙質などを原稿用紙に記録していきます。右は、国語研のウェブサイトで公開しているこの文献のデジタル画像。



資料調査の主な携行品（朝日祥之准教授の場合）



オリジナルのスライド写真デジタル化装置。スライド写真（ポジフィルム）をレンズの前に置き、その後ろから白い光を当てて撮影します。大量のスライド写真を、世界中どこでも短期間でデジタル化することができます。



カメラ。資料を撮影するときは、印刷物や展示パネルにも使えるように、高解像度で撮ります。



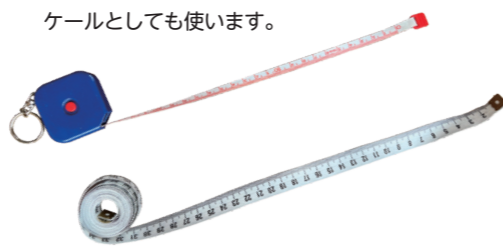
布手袋。資料を汚してしまったら傷めてしまう恐れがあるので、布手袋を着けます。紙がもろくなっていることも少なくないので、資料は慎重に扱います。

ノートと筆記用具。インタビューや聞き取りを行う際に、メモを取ります。話者の方に地図などを書いてもらうこともあります。



はけ。資料をきれいにするところから始めます。

巻き尺。資料の大きさを測ります。写真を撮影する際、資料の大きさが分かるようにスケールとしても使います。

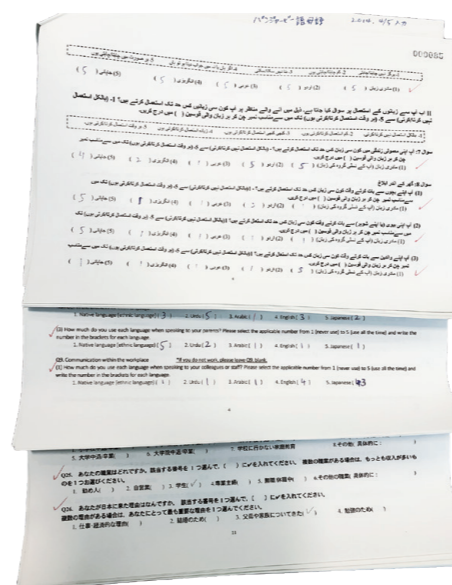


文字で集める

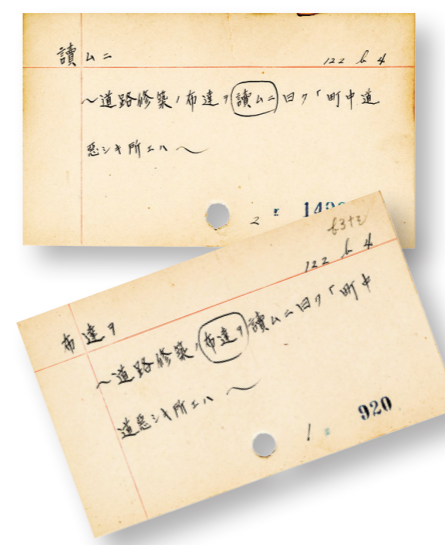


国語研は、日本各地でことばの使われ方を調べています。言語調査に用いるのが調査票です。調査協力者の回答が文字や記号で書き込まれた大量の調査票を集計し、分析します。

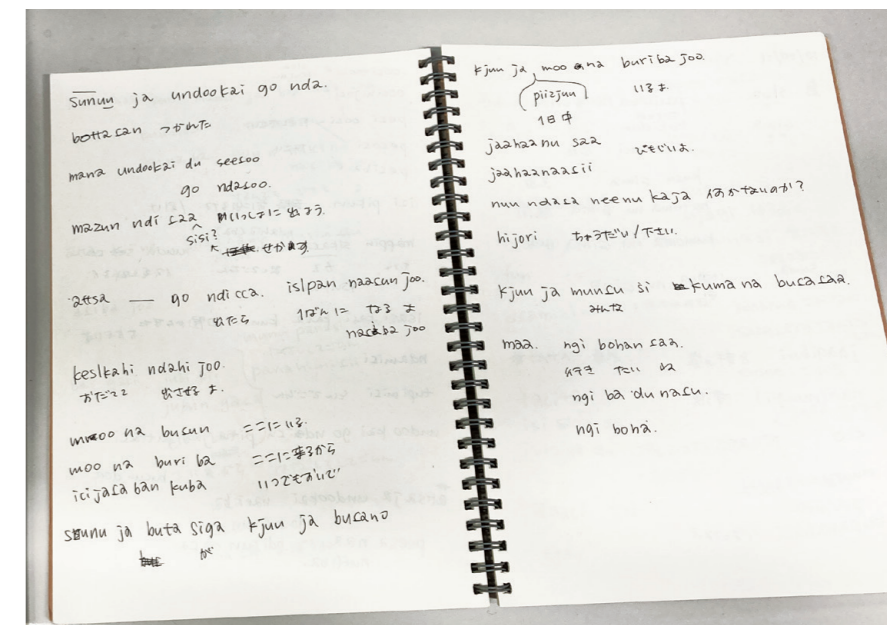
書きことばの研究では、文字を集めて分析します。話しことばの研究でも、多くの場合、録音や録画をするときに文字でも記録したり、後で文字に書き起こしたりします。音声は情報量が多いものの、一覧で把握するには向いていないため、文字での記録も欠かせません。



日本語を母語としない人を対象とした言語調査も行っています。上の写真は、日本に住むパキスタン人とその家族（日本人を含む）を対象として、言語選択や言語学習を調べる研究で使用した調査票です。ウルドゥー語版、英語版、日本語版を用意し、調査協力者に選んで記入してもらいました。余白に文字が書き込まれていることもあり、それも分析に加えます。



国語研では、雑誌や新聞などを対象に、ことばの使われ方や頻度を調べる語彙調査を行っています。以前は、調査すべき箇所を抜き出してカードに印刷しておき、抽出すべきことばに丸を付けて集計していました。1950年代は手書きによるガリ版印刷（左）で、後にタイプライターによる謄写印刷、原文のコピー、と変化してきました。現在はカードを作成せずにコンピュータを利用していますが、対象からことばを抽出して集計するという基本的な方法は変わっていません。



琉球方言の調査で使用しているフィールドノート。方言の発音は一度では聞き取るのが困難なため録音や録画をさせていただきますが、フィールドノートにも記録します。方言の発音は日本語のひらがな・カタカナでは表現し切れないため、国際音声記号を使います。パソコンやタブレットでメモを取る研究者もいますが、国際音声記号が素早く入力できない、キーボードの打音が録音に入ってしまうといった理由から、ノートへの手書きを選ぶ研究者も少なくありません。ノートの場合、何を書いているのか話者からも見やすいため、安心して話していただけるという効果もあるようです。



調査協力者に会うときは、できるだけその人たちの言語で話すようにしています。海外旅行者向けの会話集が役立ちます。